【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和６年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	佐賀市立大和中学校

1　前年度 評価結果の概要	・基礎、基本の定着に向けた授業改善を行っているが、「授業がわかる」という生徒や保護者の肯定的な評価が思うように伸びなかった。 ・不登校生徒や特別支援教育に関する支援体制の充実を目指して取り組んでいるが、発達障害的な生徒は増加しているので、さらに充実した取り組みが必要である。
2　学校教育目標	「夢や目標をもち、思いやりの心とチャレンジ精神に満ちあふれた生徒の育成」 〈校訓〉『大和協力』（やる気・ま心・ともに響き合い高め合う）
3　本年度の重点目標	①心の教育・人権教育の推進　②基礎学力の育成　③不登校および特別支援教育の推進　④業務改善・教職員の働き方改革の推進　⑤開かれた学校づくりの推進

4　重点取組内容・成果指標　　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○基礎・基本の定着に向けた、わかる授業の実践	○「授業がわかる」「わかりやすい授業に努めている」という生徒・保護者の肯定的評価80%以上	・授業改善に向けた校内研修等により、取り組みの充実を図る。 ・「誰一人として見捨てない」という共通理解のもと「学び合い」を取り入れた授業実践を行う。	B	・肯定的に答える生徒82%、95%、保護者84%であった。 ・基礎・基本の定着に向けた、分かる授業の実践が行われているといえる。実際の授業では、生徒同士が学び合う活動を多く取り入れており、主体的に学ぶ姿がみえている。また、ICTを活用した授業や、課題提出などの取り組みもあり、生徒の意欲を引き出せているようだ。今後もさらに授業改善を行い、生徒の「授業がわかる」割合を増やしていきたい。	B	・学び合いのスタイルが良い。聞きたいことが聞きやすい雰囲気があった。授業に関する研修の時間の確保が難しいと考えられるが、今後も職員研修を通して、授業改善をしながら生徒の学力向上に努めてほしい。	研究主任 各学年担当 各教科主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	・肯定的に答える生徒82%、95%、保護者84%であった。	・道徳科の授業づくりに関する校内研修を実施する。 ・人権・同和教育の視点に基づいた授業実践を行う。	B	・肯定的に答える生徒81%、保護者88%であった。 ・「命を大切にする」生徒は増加しているが、「思いやりのある言動」ができている生徒と、できていない生徒の差があるので、その点は改善していきたい。	B	・相手の立場を考えた言動はなかなか難しいところがあるが、トラブルの件数が減ってきたことからも、相手を思いやっている生徒は多いと思われる。行動が伴わなくても、心の成長はしていると考えられる。	道徳教育推進教師 各学年担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめのない楽しい学校を作ろうとしている」について生徒・保護者の肯定的評価80%以上	・生徒のつぶやきや些細な変化を見逃さず、気になる言動はその場で指導をする。 ・毎月生活アンケートを実施し、生徒の実態把握と未然防止に努める。	A	・肯定的に答える生徒94%、保護者80%であった。 ・毎月の生活アンケートを全職員で共有していることで、組織的な対応ができた。 ・「いじめ・いのちを考える日」の集会や、掃除の集会での教員の話で、いじめや差別に対する生徒の意識を高めることができた。	A	・全学年ともよく取り組んでもらっている。ただ、保護者の約20%は、いじめに対しての対応が不十分と感じているということなので、今後は生徒と保護者の意識の差が埋まるよう、保護者への丁寧な説明を心がけてほしい。	生徒指導主事 各学年担当
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・授業はもちろん、学校行事や部活動など教育活動全般を通して、自らの夢や目標について考えさせる機会を持つ。	B	・肯定的に答える生徒92%、65%であった。 ・意図的に「出番・役割」を作り、学年行事や集会などで承認することで、少しずつ自信をもって取り組む生徒が増えた。 ・進路実現に向けて、1年時よりさまざまな行事を仕組むことで、自ら目標を立てて努力しようとする生徒も増えている。ただし、数値的には不十分なので、夢や目標とは最終的なことに限らず、身近なものでよいことを伝えていく。	B	・非常に良い結果だと思う。自分の居場所があることは生きるエネルギーになるし、自分が必要とされることで自己肯定感が高まることにつながる。ただ、中学時代の「夢」や「目標」は、時によって変わっていってよいし、大きな目標でなくても、その時々のスモールステップの目標を積み重ねて成長していってほしい。	各学年主任
●健康・体つくり	❹「安全に関する資質・能力の育成」	❹児童生徒の交通事故を0（ゼロ）にする	・登下校時、特に自転車の安全に関する交通指導を、関係機関やPTAと連携して継続的に行う。 ・学期初めには、教職員の輪番による交通安全指導を実施する。	C	・生徒の交通事故は0ではなかった。 ・スタントマンが実演する交通安全教室を実施することで、啓発を図った。 ・PTAや教職員による登下校の指導は、徹底して行うことができたが、不注意による事故が多かったため、継続した指導が必要である。	C	・事故件数が減らない原因をきちんと整理して、対策を講じる必要があるのでは。事故や苦情の場所が特定できるのならば、通学路の見直しや、表示の工夫を行うなど、今後も継続して指導して欲しい。	安全教育担当
	○部活動の充実	○「部活動は充実した活動になっている」について、生徒・保護者の肯定的評価80%以上	・「部活動活動規定」に沿った活動を行う。 ・適切な指導を行いながら生徒の自主性や自立性を育成し、体力の向上を図る。 ・保護者の部活動に対する理解と協力が得られるよう、丁寧な対応を心がける。	A	・肯定的に答える生徒93%、保護者91%であった。 ・新チームになってからも多くの種目で入賞しており、今後の活躍も期待できることから、生徒、教員ともに、部活動に一生懸命に取り組んでいると言える。 ・今後も「部活動活動規定」の見直しをしながら、取り組んでいきたい。	A	・非常によく頑張っていると思う。今後も頑張ってほしい。	部活動担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・業務記録票で勤務時間の可視化と適正化を図る。 ・退勤時間を意識し、特に部活動休養日設定とその徹底を図る。	B	・新しい出退勤システムで、業務記録の可視化が図られているが、職員の入れ替わりが多く、行事運営に関する確認に時間がかかってしまった。 ・部活動休養日の設定と実施に関しては、今後も徹底して行っていく。	B	・職員の未配置や入れ替わりが多かったこともあり、職員の残業が減らなかった現状はやむを得ない部分もある。今後は人員配置が整い、心身共に健康に仕事ができるよう最善を尽くしてほしい。	教頭
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する支援体制の充実	○特別支援教育委員会と生徒に関する情報交換会の定期的な開催 ○生徒との関わり方が変化した職員の肯定的評価80%以上	・特別支援教育に関する校内研修会を実施する。 ・定期的に特別支援教育委員会を開催する。 ・巡回相談やその他専門機関と連携する。	B	・肯定的に答える職員95%であった。 ・特別支援学級担任を中心に、特別支援部会を週１回開くことで、情報共有及び個に応じた対応を検討した。 ・大和特別支援学校に巡回相談を依頼し、専門的な意見を受けて指導の工夫を図った。	A	・支援体制づくり、という点ではよくやってもらっている。生徒たちが安心して学校生活を送れるよう、今後も継続して欲しい。	特別支援教育Co. 特別支援学級担任

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○不登校生徒への支援体制の充実	○不登校生徒への個に応じた支援体制の充実	○「相談事や悩みにきちんと応じてくれる」について生徒の肯定的評価90%以上	・不登校対策に関する校内研修を実施する。 ・定期的に教育相談部会を開催する。 ・SC、SSW、別室対応支援員、サポート相談員等と連携し、当該生徒や家庭へ適切な働きかけをする。	A	・肯定的に答える生徒92%であった。 ・SCや別室対応支援員、サポート相談員等も参加する教育相談部会を定期的に開催し、相談室登校や不登校生徒への支援、保護者との連携等について情報共有を図り、対応した。	A	・不登校生徒に対する行政的な支援体制も必要だが、「学校はあなたを待っているよ」というメッセージを送り続けてほしい。また、完全不登校の生徒に対しても、関わりや支援を継続してほしい。	教育相談担当 各学年担当

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・学力向上に向けては「学び合い」の授業を全教科で取り入れ、引き続き共通理解・共通実践に努める。その上で、確かな学力の定着につながる授業改善やICTの活用を効果的に行いながら、「授業がわかる」生徒を増加させ、正答率をあげていきたい。 ・「安全に関する資質・能力の育成」については、学校の課題をきちんと分析して再検討し、具体的な対策を講じていきたい。